

学会へ行こう！

ー オンラインでの学術集会参加ヒント集 ー

2022

日本産業衛生学会
ダイバーシティ推進委員会



学会へ行こう！

—オンラインでの学術集会参加ヒント集—

日本産業衛生学会
ダイバーシティ推進委員会

はじめに

ダイバーシティ推進委員会では、より多くの会員の方々が学会活動を活発に行うためにはどんな工夫が必要なのかを検討してきました。2020年に「子育て中の学会員の方が安心して楽しく学術集会に参加できること」として、「子育て中の学術集会参加ヒント集」を作成しました。今回は第2弾として、新型コロナウイルス感染拡大による影響で一気に進んだ学術集会などのオンライン開催について、会員の皆さんがスムーズに参加できるヒントになるための資料を作成しました。これまで、学術集会に参加したくても様々な事情で現地参加できなかった会員も多いかと思います。学術集会のオンライン開催は私たちの議論の中でも「あったらいいな」という項目の一つに挙げていたものです。

一方、いざオンライン開催が始まってうまく視聴できない、トラブルが生じるなど戸惑うこともあるでしょう。また、これから学術集会のオンライン開催をやってみたいと考える会員もいるでしょう。そんな会員に向けたヒント集の作成を当委員会の地方会選出委員を中心に意見を出し合い、試行錯誤を重ねながら進めました。

このヒント集が学術集会のオンライン参加や開催の後押しとなればと思っています。今後はこのヒント集を活用いただいた会員の皆様から、新たな情報やアイデアを委員会に挙げていただき、このヒント集をバージョンアップしていけたらと考えています。

目次

1 オンライン参加に関する基礎知識	2
2 オンライン参加における準備	3
3 オンライン参加・開催のコツ	4

1 オンライン参加に関する基礎知識

オンラインで学術集会を行う基本的な知識をまとめました。ご存じの方は読み飛ばしてもよろしいかと思います。この基本を理解しておく、どんな形式での開催においても戸惑うことは少ないでしょう。

① ツールの紹介

学術集会のオンライン開催では、Zoom、Microsoft Teams、Webex、Google Meet といったツールが使用されることが多いですが、日本産業衛生学会では主に Zoom が採用されています。

Zoom <https://explore.zoom.us/ja/products/meetings/>

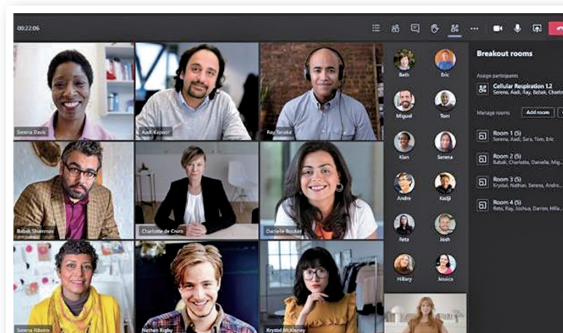
Microsoft Teams <https://www.microsoft.com/ja-jp/microsoft-teams/group-chat-software>

Webex <https://www.webex.com/ja/index.html>

Google Meet <https://apps.google.com/intl/ja/meet/>



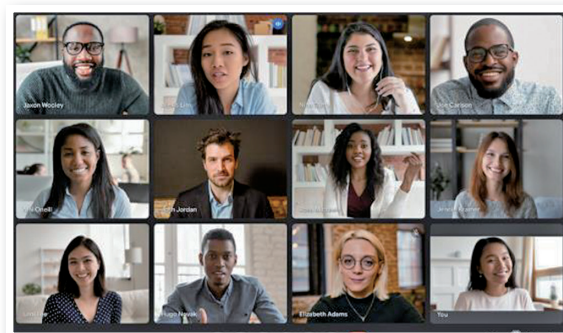
Zoom



Microsoft Teams



Webex



Google Meet

② 開催形式

1. リアルタイム (Live) 形式

学術集会のホームページ (HP) や抄録集に掲載された時間に配信が開始され、リアルタイム (Live) での視聴になります。配信方法として、学会会場で講演されているものが Live 配信される方法と事前録画した動画が配信される方法があります。

2. オンデマンド形式

学術集会終了後の指定された期間内であれば、いつでも視聴ができる形式です。録画されたメディアが使用されます。配信のファイルとして、学会会場等で録画された講演、一般演題のプレゼンテーション動画やパワーポイントファイルが配信されます。

2

オンライン参加における準備

学術集会のオンライン参加のために必要なものは、インターネットに接続できる環境とPCやタブレット、スマートフォンなどの端末、スピーカー、マイク、ウェブカメラです。ウェブカメラは無くても参加は可能ですが、発表する場合は、なるべく使用をおすすめします。

① スピーカーとマイク

PCやスマートフォン内蔵のスピーカー、マイクでも利用できますが、内蔵マイクは周囲の雑音や環境音を拾いやすく、ハウリング*が生じやすいです。複数のPCで参加する場合のハウリング防止としては、PC 1台のみマイク・スピーカーをオンにして、残りはすべてオフにする（他のPCが音を発しない、拾わないようにする）。ヘッドセットやスピーカーマイクを使用するなどがあります。

発言する場合はヘッドセットの利用が望ましいでしょう。特に、複数人仕事をしている執務室内でPC内蔵のスピーカーやマイクを利用してオンライン参加を行うと、発表者の音声がスピーカーから発せられるとことにより、他の仕事をしている方は耳障りで仕事しづらくなるかもしれません。また、発言する場合も、周囲の雑音が入ると、参加している方は発言内容を聞き取りづらくなります。個室や会議室等を利用して参加することを検討してもよいでしょう。

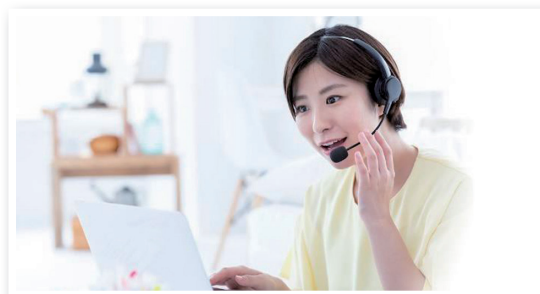
*ハウリング：スピーカーから出た音がマイクに入り込み、

ふたたびスピーカーから発せられる現象。スピーカーの

音をマイクが拾うことを繰り返す際に音が増幅し、不快に感じる機械音が発生します。耳障りなハウリングは、マイクとスピーカーの位置を遠ざける、ヘッドセットを導入するなど対策できます。



スピーカーマイク



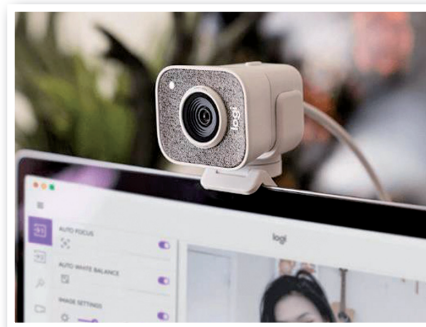
ヘッドセット

② ウェブカメラ

ウェブカメラは無くても参加は可能ですが、発表する場合は、なるべく使用をおすすめします。ウェブカメラはPCやタブレットに内蔵されているもので構いません。内蔵のカメラがない場合でも、簡易的な外付けのウェブカメラでも対応できます。カメラを設置したあとは、テストで起動し、問題がないか確認します。Zoomなどのツールでは、事前にカメラテストすることが出来ます。

*事前の準備はしっかりと！

特にオンラインで発表する際は、事前にリハーサルをしましょう。PC画面に読み原稿が映ってしまう、マイクがPCに認識されず音声流れない、機密性の高い書類や他の人が映り込んでしまうなど、想定外のハプニングがおこります。発表資料の共有設定、マイクテスト、カメラの撮影の範囲を確認し、自分を映している画面の背景画像を準備したり、背景画像の設定の仕方も事前にテストで確認しておきましょう。



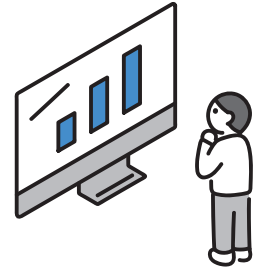
ウェブカメラ

1. オンライン参加の特徴を知ろう

オンライン参加における注意点や、効率的な参加の仕方についてまとめました。リアルタイム(Live) 配信とオンデマンド配信について、それぞれの特徴についても知っておきましょう。

(1) オンライン参加のメリット

- ① 自分の居住地、学会開催地など距離の問題がなく、参加しやすい
- ② 旅費・宿泊費がかからず、移動に要する時間拘束もない
- ③ 育児・介護など、家庭の事情で出張が困難な状況でも参加しやすい
- ④ 連続して仕事から離れる必要がなく、仕事の空き時間を利用して参加できる
- ⑤ 現地開催では「立ち見」になる講演を、ゆったりと視聴できる
- ⑥ 服装や化粧など、外出に伴う整容にとらわれずに済む
- ⑦ スライドを目の前のモニタで見ることができる。小さくて見えにくい場合にも拡大できる
- ⑧ 電車などでの移動時間にも視聴できる



(2) オンライン参加のデメリット

- ① パソコン・タブレットなどのデバイスとネットワーク環境を整えることが必須
- ② テレワークと同様に、オフィス並みの環境を自ら準備しないと疲労の原因となる
- ③ 学会場で他の参加者との交流が行えない
- ④ 臨場感がない*
- ⑤ 片手間の視聴になって、集中できないことがある
- ⑥ 「大阪の学会の時に…」などと、振り返った時に、開催地をカギに共有した感覚が持てない
- ⑦ 開催地の観光・グルメ、懇親の場が持てない

*現地参加ならではの臨場感とは何でしょう？

目の前に座長、演者がいて、聴衆がいる、学会場ではそんなシーンを一目で把握できます。どの講演に、どれだけの人が集まっているのかといった情報は現地参加の醍醐味ではないでしょうか。

「そうか、最近はこのトピックスが注目されてるんだな」

「このテーマは昔人気だったけど、最近知識が広まったので、以前より人が減ったな」

といった、自分が受けた感触そのものが現地参加ならではの肌感覚です。

講演が始まりました。演者の表情が見えます。「緊張してそう。分かるわかる」という共感。ユーモアたっぷりの演者には聴衆も笑顔になります(マスク越しでは感じにくいですが…)。とある講演では、聴衆は前のめり、食い入るようにスライドを見つめています。自分にも熱気が伝わってきて、モチベーションが高まります。別の講演では、コックリ、コックリしている人も…

臨場感とは、自分以外の人たちが合わさって作り上げる雰囲気であって、オンラインでは伝わりにくいものと言えます。

プロ野球をテレビではなく球場で見ることの価値は ICT がどんなに進歩してもなくなることはないでしょう。一方、テレビ中継では投手と打者が大写しにされ、球筋まではっきりと見ることができる点が大きなメリットであり、オンライン開催の良い点と言えます。「隣に座った人がコワモテの阪神ファンで気を遣いました」ということありませんね。

(3) オンライン開催での各種認定単位取得

- ① 日本医師会認定産業医研修会は、原則として現地参加でしか単位認定されません。
- ② 社会医学系専門医制度では、配信の際のキーワードの登録などで単位認定されるものがあります。
- ③ 日本産業衛生学会産業保健看護専門家制度では研修手帳に受講票(コピー可)を添付し、研修概要を記載する必要があります。
- ④ 臨床心理士ポイントなど、オンライン参加の場合でも受講証明を後日提出してもらうものもあります。オンラインでの研修受講が認定されるかどうかは各団体へお問い合わせください。

2. リアルタイム(Live) 配信の特徴と注意点

- ① リアルタイム(Live) 配信は開催時間が決まっており、計画的に時間を確保して視聴する必要がある。
- ② セッション開始時間前に余裕を持って接続する。メール配信された参加URLから入るのか、学会HPから入るのか、など、参加方法そのものが分からなくなってしまうことも。
- ③ ウェビナーでない小さな会では、自分でカメラ・マイクオフ設定しておかないと、知らない間に自分の環境が配信されてしまうことも。
- ④ 現地参加と違い、視聴中に話しかけられる・電話が入るなど、邪魔が入る可能性がある。
- ⑤ 質疑応答に参加することができる。学会場では躊躇する人でもチャットを通してなら質問しやすい。
- ⑥ ブレイクアウトルームの利用など主催者の工夫次第では、「見るだけ」から「参加型」のセッションに早変わりし、他の参加者との交流に発展することもある。
- ⑦ ブレイクアウトルームは半強制参加になる場合もあるので、あらかじめ心構えが必要。

3. オンデマンド配信の特徴と注意点

- ① 視聴時間が自由に決められる。
- ② 繰り返し再生が可能で、確固たる知識化につなげやすい。
- ③ 早送り再生をすることで時間の節約につながる。
- ④ 時間を分けての細切れ参加も可能。
- ⑤ 現地やライブ配信では同時開催講演を視聴できないが、オンデマンド配信では可能。
- ⑥ ライブ配信はあるが、オンデマンド配信がないという場合もあるので、要注意。
- ⑦ 質疑応答は出来ない。
- ⑧ 視聴計画をきちんと立てないと、結局見逃したということになりかねない。

コラム 学会参加の方法をプロ野球観戦になぞらえると…

球場へ行く(現地参加) 臨場感を味わえる。というか、味わうために行く。外野の芝生が眩しく、応援の音がお腹に響く。この日のために新幹線とホテルを予約したのだ。シートが狭く硬いのが玉にキズ。試合の見やすさは場所による。ネット裏ならテレビにも引けを取らないが、外野席からだ投手の球種はわからない。でも、観戦に来ている有名人を見つけるような体験は現地ならでは。終始試合に集中して最後まで観戦。最良のチームが得点すると、知らない人とも一緒に喜びを分かち合えるのがうれしい。

テレビで生中継を見る(リアルタイム(Live) 配信) テレビの前のゆったりとしたソファに座って見ることができる。投手の球種までよく見える。おっと、宅配便が届いたせいで良いシーンを見逃してしまった。みんなでワイワイ見ることもあるが、そんな時には話に夢中で試合経過が頭に残ってないな。ひとりで見ると試合に集中できるのは良いところ。でも、ときどきは眠くなってしまって、気づいたら試合が終わっていたなんてことも。

録画しておいた放送を見る(オンデマンド配信) 自分の空き時間で見れるのが良いところ。コマーシャルや相手の攻撃時間を飛ばして見ることができるのも助かる。でも、早く見ておかないと次の試合が始まってしまうよ。



4. 自分が学術集会でオンライン発表する際の注意点

(1) 環境設定

オンライン環境の設定については前章で詳しく説明されていますが、① Wi-Fi (無線) よりも有線 LAN 接続を優先すること、② ヘッドセットを装着して自分の声を鮮明に届けること、③ 自分が映るシーンでは照明に注意して準備しましょう。

特に、自分の Wi-Fi 環境が途切れることは致命的で、どんなに優秀な業者が入っていても修正できません。くれぐれも注意してください。Wi-Fi 環境が不安定になることを想定し、スマートフォンによるテザリングやモバイル Wi-Fi を使用するなど、別の手段をバックアップのために準備しておきましょう。



(2) 配信プラットフォーム

配信システムについては Zoom、Microsoft Teams、Webex、Google Meet 等さまざまなプラットフォームがあります。使用方法や自分のパソコンで環境設定についてはあらかじめ勉強しておきましょう。

(3) 発表の準備

画面共有の際に間違ったファイルを開くことがないように、パソコンのデスクトップ画面には自分が発表するパワーポイント資料のみにして、他のファイルをあらかじめ整理しておきましょう。

(4) 発表時の心構え

残念ながら、自分の発表を聴衆がどのような表情で視聴しているかはまったくわかりません。聞いている人がいないかのような錯覚に陥ることもあります。話し出したら落ち着いて、相手に考えを届ける気持ちで最後までやり切りましょう。

(5) 応用力アップを目指して

挙手ボタンやリアクションボタンの利用も試してみましょう。講演中にチャットで意見を求めるといった工夫もできます。

5. 自分が学術集会でオンライン開催する際の注意点

(1) 事前準備

信頼できる業者に任せている場合は安心ですが、自分たちで開催する際には、事前練習が欠かせません。現地開催の時にはまったくなかった問題が付随することを明確に認識しておくことは重要です。



(2) 主催者権限の行使

主催者が参加者を強制的にミュートにする：これができないと、講演中にたびたびマイクオンになっている参加者の雑音を拾ってしまい、画面も切り替わってしまいます。一般的な参加では主催者権限機能を使用できませんので注意しましょう。

(3) 参加者の表記

参加者には実名登録を求めることが望まれますが、自覚しないまま仮名やイニシャルで参加する人もいます。誰が参加しているかが明確化されていることは演者の安心につながるのですが、ウェビナー以外では有効な手立てがなく、今後の課題と言えます。

(4) 発表資料の共有化と連絡バックアップ体制

発表資料（スライド）はあらかじめ主催者側も共有しておき、通信トラブル等の事態に対応できるように備えましょう。また、万が一のバックアップのために、代表者は演者と携帯電話で連絡が取れるようにしておきましょう。Wi-Fi 接続が途切れるような状況では、主催者がスライドを映写し、演者は携帯電話で話すというような体制も考えられます。

(5) 座長への配慮

オンライン開催での座長の役割は複雑化します。座長は演者の発表を聴きながら、チャットの質問にも目を配ったり、質疑応答に耳を傾けつつ、挙手マークが出てこないか気を付けたりする必要があります。同時並行処理は難しいので、可能な限り2人座長にして役割分担する体制が望まれます。

(6) ブレイクアウトルーム使用の注意点

ブレイクアウトルームの設定後、退出者が多いと参加者が1人だけの場合も生じ得るので目配りが必要です。

(7) 一般演題の質疑応答

一般演題では質疑応答が非常に重要です。特にオンライン開催の場合、質疑応答のみが演者へのフィードバック機会になります。一般演題をオンデマンド開催する形もありますが、その場合でもせめて書き込み機能を利用した質疑応答機会を作るなどして、発表のみで終わらないような配慮が望まれます。

6. オンライン開催される学術集会での重要な懸念事項

(1) 発表画面の無断使用

オンライン学会においても発表内容の録画や写真撮影は禁止されることが多いですが、物理的に遮断するための有効な方法はありません。発表データの無断使用、無断での2次利用が生じ得ることは、発表者自身が内容を制限してしまい有益性が低下する可能性につながります。

自分自身が発表者になった際、発表内容が無断で拡散されてしまう可能性を考慮する必要があります。たとえば、名前は伏せているものの推定可能な企業における内部情報や、メンタルヘルスの事例紹介のような機微な内容を発表する際には特に注意が必要です。



(2) 将来的に、現地参加の機会を奪われてしまうことも…

オンライン参加が可能な場合、会社にとっては現地参加に伴う出張コストの削減につながります。すなわち、出張としての現地参加がしづらくなる可能性が生じるのです。オンデマンド配信が可能だとわかると、業務時間内におけるライブ参加への制約が生じる可能性も否定はできません。

現地参加の最大のメリットは人との交流、人脈作りにあると思います。学会参加の制約を想像すると、これらが目には見えないけれど、大変貴重な財産であることが再認識されます。現地参加できた場合に積極的に交流し、そのメリットを会社に示すことができるよう意識していく必要があるのではないのでしょうか。

執筆担当者(◎はリーダー)

1 オンライン参加に関する基礎知識

2 オンライン参加における準備

◎能川 和浩(関東地方会)

後藤 由紀(東海地方会)

永田 昌子(九州地方会)

中村 憲司(産業衛生技術部会)

3 オンライン参加・開催のコツ

◎岩根 幹能(近畿地方会)

伊東 和恵(九州地方会)

田淵 裕子(北海道地方会)

村越 亜弥子(東北地方会)

川上 智子(北陸甲信越地方会)

藤吉 奈央子(近畿地方会)

井上 恵(中国地方会)

斎藤 恵(四国地方会)

苅田 香苗(専門家)

編集

◎野原 理子(副委員長)

西 賢一郎(委員長)

2022年7月 ダイバーシティ推進委員会